

インフルエンザ流行注意報発令

～新型コロナ・インフルエンザにそなえ、手洗いと咳エチケットを心がけましょう～

先日、令和4年12月28日付でインフルエンザ流行期入りを発表しました。その後も患者報告数が増え、2022/2023シーズンの令和5年第5週（1月30日～2月5日）の全市集計において、

インフルエンザ注意報発令基準（1定点医療機関当たり1週間の患者報告数10.00人）を超え、**「13.46」（2月9日現在の暫定値）**となりましたので**インフルエンザ流行注意報を発令**しました。

年齢別では10歳未満の報告が全体の約6割、15歳未満の報告が全体の約8割となっており、学級閉鎖の報告も増えております。

本格的な流行期に入りましたので、一人ひとりがインフルエンザ予防策を徹底しましょう。

<経過>

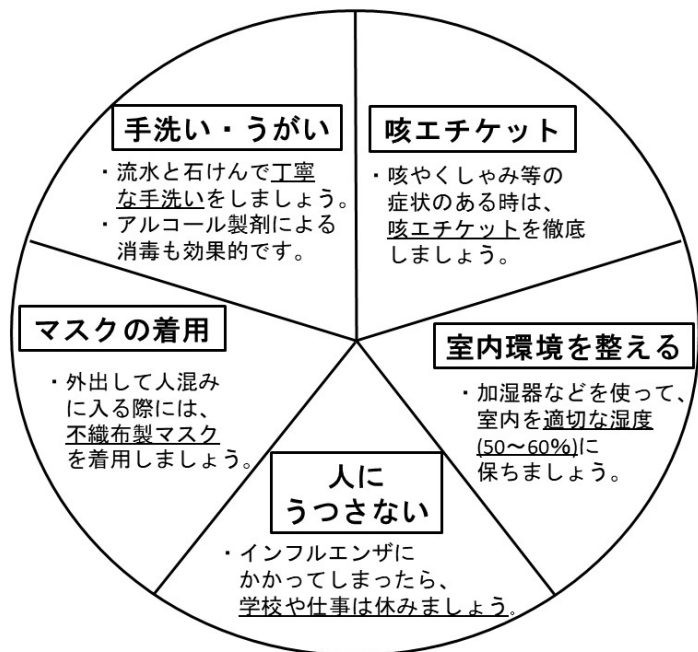
定点当りの患者報告数の経過は次の表のとおりです。

	第51週	52週	第1週	第2週	第3週	第4週	第5週
患者報告数(人)	2.55	3.37	3.21	4.89	8.61	9.90	13.46
備考	流行開始						流行注意報

※患者報告数は医療機関からの追加報告により数値が変動します。

横浜市衛生研究所 HP <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/eiken/>

インフルエンザ予防のポイント



インフルエンザにかかったかもしれないと思ったときは

- ・子ども、高齢者、妊婦、持病のある方は症状が重くなりやすいため、医療機関を受診しましょう。
- ・呼吸が苦しい、意識状態がおかしいなど重症化のサインがみられる場合は、すぐに医療機関を受診しましょう。

※インフルエンザの予防策は
新型コロナウイルス対策にも有効です

【参考】厚生労働省 HP 「令和4年度インフルエンザQ&A」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infuenza/QA2022.htm

お問合せ先

健康福祉局健康安全課長

赤松 智子 電話 045-671-2442

健康福祉局衛生研究所感染症・疫学情報課長

横山 涼子 電話 045-370-9279

横浜市インフルエンザ流行情報 6 号

横浜市健康福祉局健康安全課／横浜市衛生研究所

<<トピックス>>

流行注意報が発令されました

【概況】

2023 年第 5 週(1 月 30 日～2 月 5 日)の定点あたりの患者報告数^{※1}は、横浜市全体で **13.46** と、前週の 9.90^{※2} から増加しました。

年齢別では、10 歳未満の報告が全体の 59.5%、15 歳未満の報告が全体の 84.0% を占めています。学級閉鎖等は、第 5 週にて小学校を中心に 45 件、患者数 498 人が報告され、前週より増加しています。

今シーズン第 5 週までの市内の迅速診断キットの結果は、累計で **A 型 99.3%**、**B 型 0.6%**、**A・B 型ともに陽性 0.1%** と、A 型が多く検出されています。なお、全国のウイルス分離・検出状況^{※3}では、AH3 型が多く検出されており、横浜市での検出状況も同様です。

今シーズンは、インフルエンザおよび新型コロナウイルス感染症が流行しています。かからないために丁寧な手洗い^{※4}や適度な湿度(50～60%)を保ち、うつさないために咳エチケットを徹底するなど、適切な対策^{※5}を行いましょう。

※1 定点あたりの患者報告数とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内 153 か所)から報告された患者数の平均値です。

※2 追加報告があったため、以前お知らせした情報から報告数が更新されています。

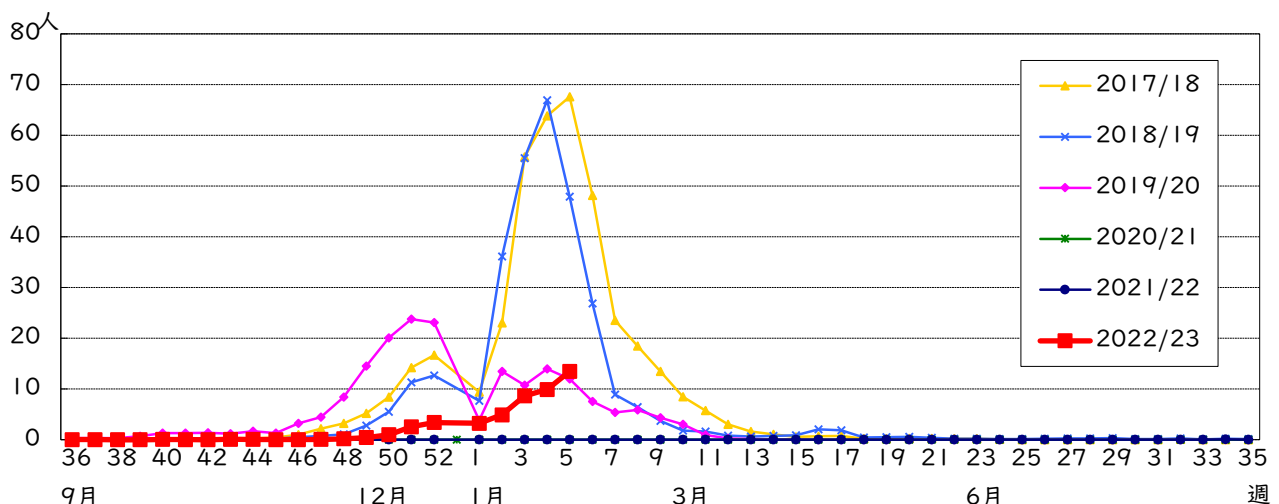
※3 [インフルエンザウイルス分離・検出速報\(国立感染症研究所\)](#)

※4 [横浜市保健所ホームページ](#)(「正しい手洗い方法」および、掲示用ポスター「石けんで『手』を洗おう」をトップページに掲載しておりますので、是非ご活用ください)

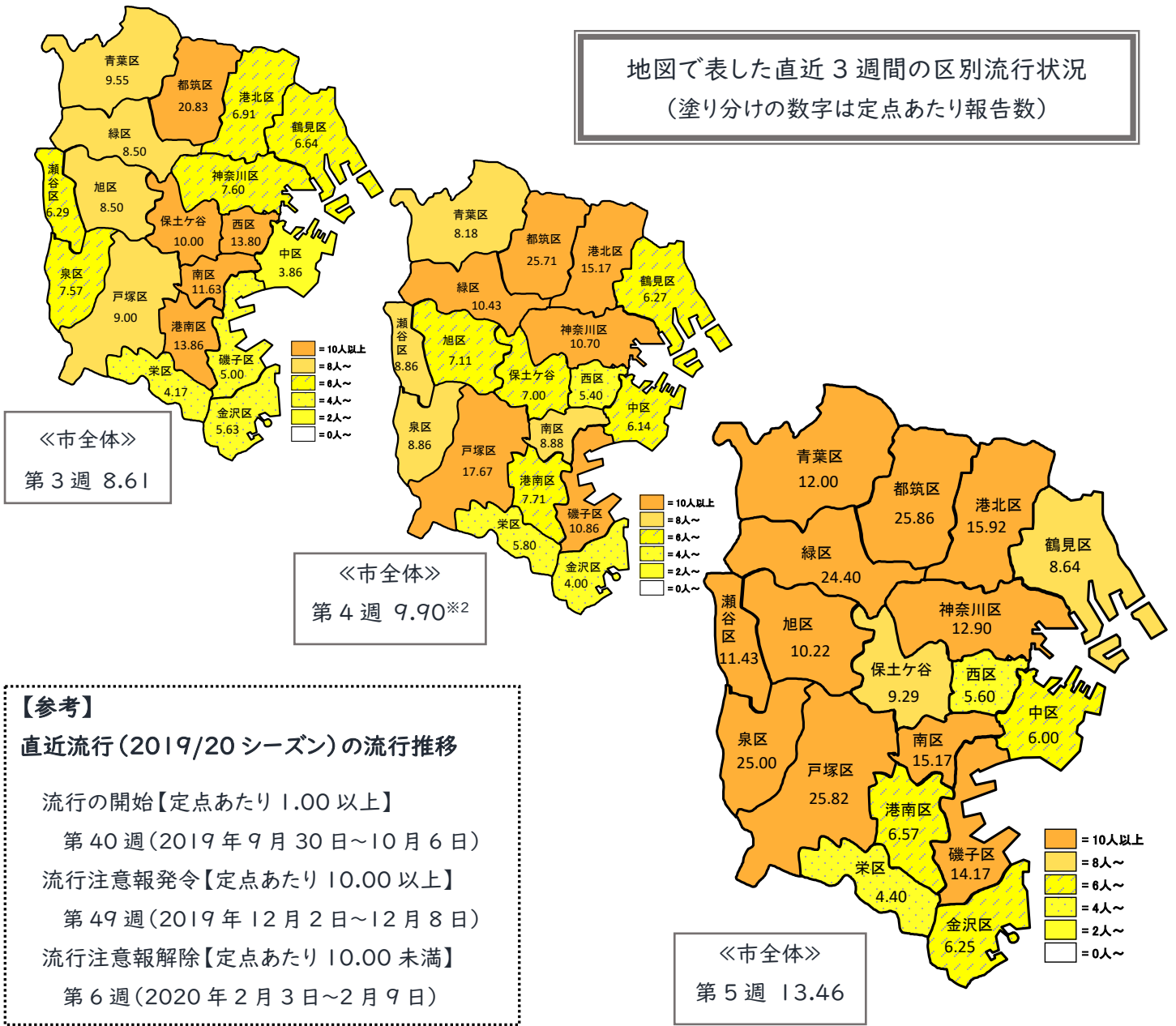
※5 [市民向けインフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

【市内流行状況】

市全体の定点あたりの患者報告数は、第 46 週以降増加しており、第 51 週で 2.55 となり、流行開始の目安となる 1.00 を上回りました。第 4 週は 9.90^{※2}、第 5 週は 13.46 となっています。



地図で表した直近3週間の区別流行状況
(塗り分けの数字は定点あたり報告数)



【参考】

直近流行(2019/20シーズンの流行推移

流行の開始【定点あたり1.00以上】

第40週(2019年9月30日~10月6日)

流行注意報発令【定点あたり10.00以上】

第49週(2019年12月2日~12月8日)

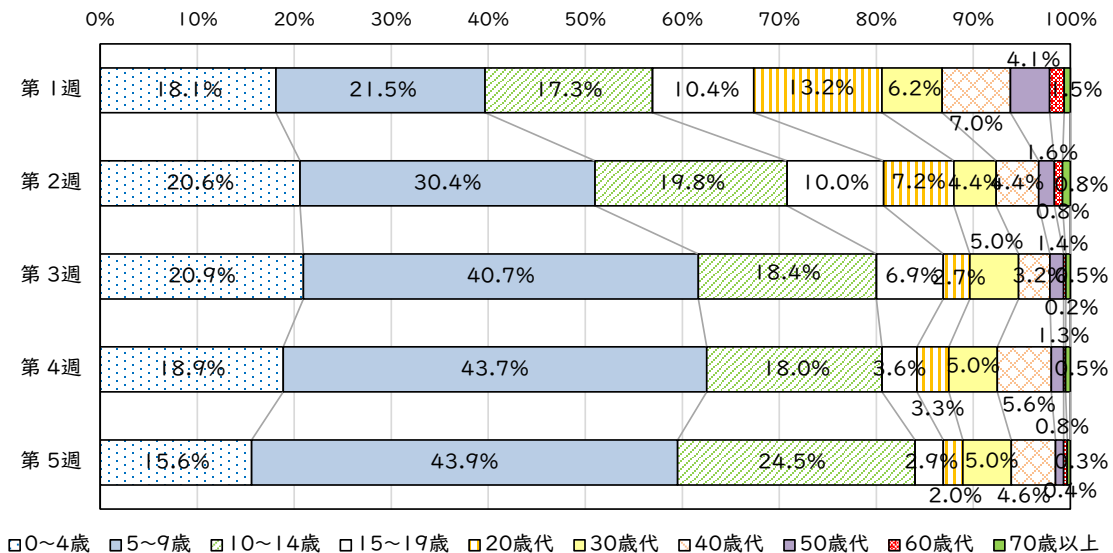
流行注意報解除【定点あたり10.00未満】

第6週(2020年2月3日~2月9日)

【年齢層別集計】

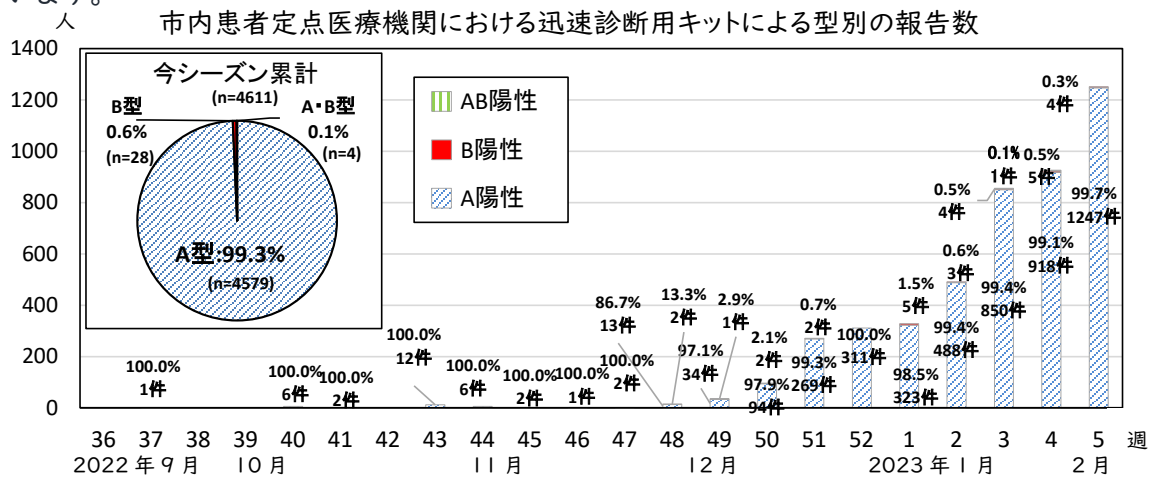
第5週の患者年齢構成は、10歳未満が59.5%、10歳から15歳未満が24.5%となっており、15歳未満が全体の84.0%を占めています。

年齢層別患者割合



【迅速キット結果】

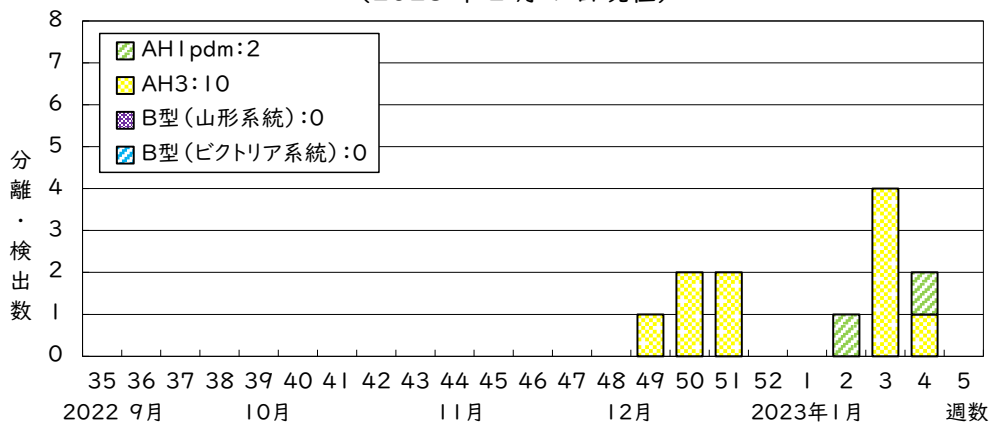
第5週の迅速キットの結果はA型99.7%、B型0.3%、A・B型ともに陽性0.0%で、A型がほとんどを占めています。今シーズン累計は、A型99.3%、B型0.6%、A・B型ともに陽性0.1%となっています。



【市内病原体検出状況】

市内では病原体定点^{※6}から、AH1pdmが2株、AH3が10株分離・検出されており、全国の分離・検出状況と同様の傾向と考えられます。

市内病原体定点からのインフルエンザウイルス分離・検出状況 (2023年2月7日現在)

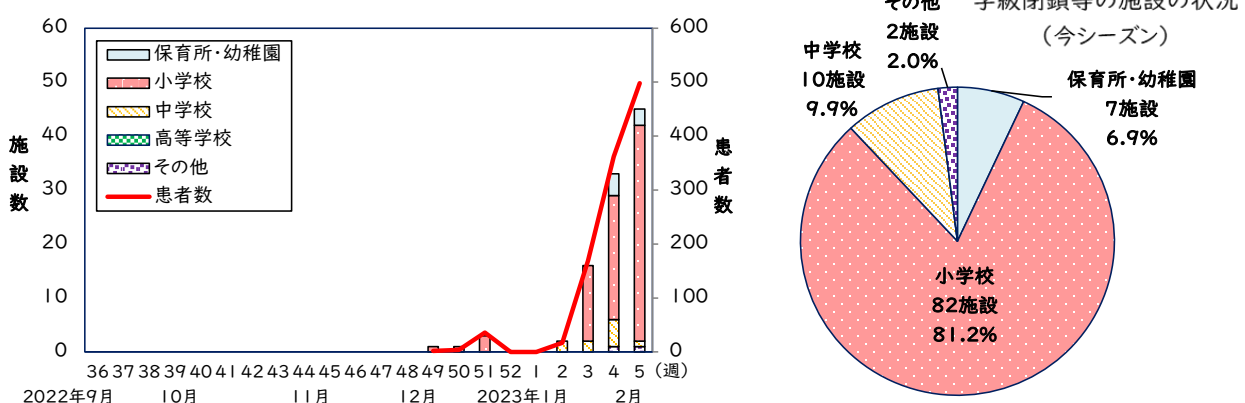


※6 病原体定点:採取した検体を衛生研究所に送付する医療機関で、市内に16か所あります。うち、インフルエンザについては12か所にて採取されています。

【市内学級閉鎖等状況】

第5週は、45件の報告(保育所・幼稚園3件、小学校40件、中学校1件、その他1件)があり、報告された患者数は498人でした。今シーズンの累計では、第5週までに101件の報告があり、報告された患者数は延べ1,088人となっています。報告された施設の割合は、保育園・幼稚園6.9%、小学校81.2%、中学校9.9%、高等学校0.0%、その他2.0%となっています。

学級閉鎖等の施設数と患者数の推移

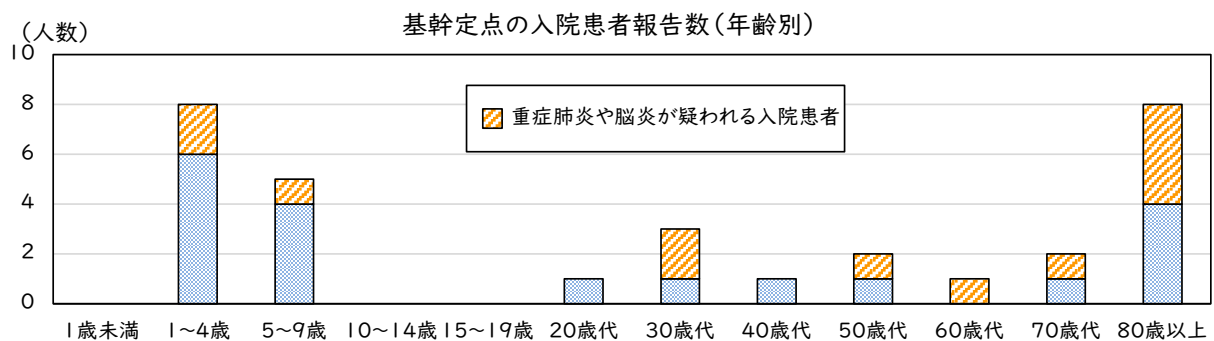
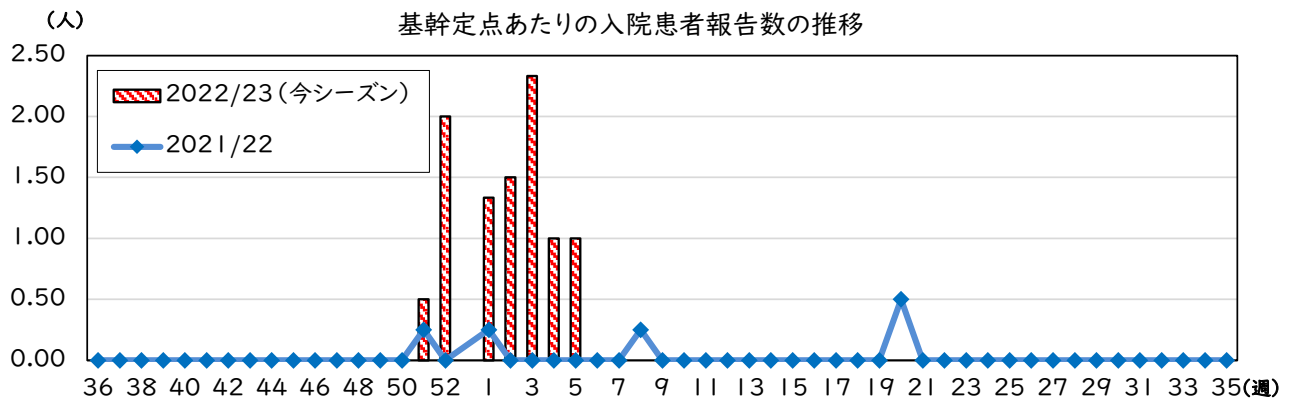


【入院サーベイランス】

市内基幹定点医療機関^{※7}におけるインフルエンザ入院患者は、第5週に3人が報告され、今シーズンは現在までに累計31人（10歳未満13人、20歳代1人、30歳代3人、40歳代1人、50歳代2人、60歳代1人、70歳代2人、80歳以上8人）が報告されています。

入院時の診療内容が把握されている事例で、ICU入室、人工呼吸器の使用、頭部CT検査、脳波検査等が実施された重症肺炎や脳炎が疑われる入院患者は、第51週に1人、第52週に1人、第1週に4人、第2週に3人、第3週に1人、第4週に1人、第5週に1人報告されています。

※7 基幹定点：患者を300人以上収容する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には4つの基幹定点があります。



<<参考リンク>>

近隣自治体の流行状況

○[神奈川県](#)

○[川崎市](#)

○[東京都](#)

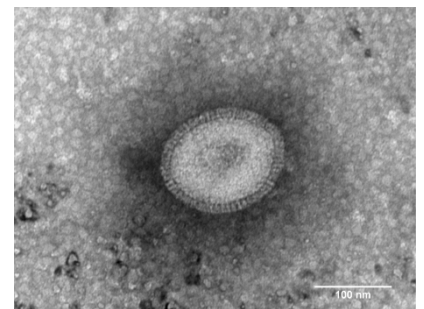
全国の流行状況

○[国立感染症研究所](#)

インフルエンザウイルスの
電子顕微鏡写真(6万倍)

撮影:

横浜市衛生研究所



【お問い合わせ先】 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
横浜市健康福祉局健康安全課

TEL 045(370)9279
TEL 045(671)2442